

ほっと通信

訪問看護 ほっと ステーション

講演会「在宅で認知症の方を支えるための心と技」

8月4日(土曜日)くにたち郷土文化館講堂において 中部学院大学人間福祉学科教授 喜多祐荘先生を講師にお迎えして行いました。暑いなか、また、駅からちょっと距離があったにもかかわらず80名近くの参加がありました。

痴呆性高齢者(アルツハイマー病型の認知症)の「記憶再生による生活共生の援助技術」や、介護生活における心の問題、ケアの向上、認知症の方に対するかかわり方などの講義の後、実際にロールプレイを行いました。

アルツハイマー型認知症は症状が進むほど「若返る」。記憶がさかのぼり、そこが現在の自分であるということ。そのような方と関係をもつとき、その人の記憶は今いくつなのか、若いころの記憶を聞きながら探り、それに合わせた役割を周りが演じれば若いころの馴染みの登場人物として覚えてもらえるという講演内容でした。

あるデイサービスの利用者さんと職員の間を思い出しました。症状が進むほど「若返る」。しかし、若返った年齢により反抗期であったり、恋愛の嫉妬に狂ったりすると大変。周囲がきちんとした対応が重要とのことでした。

参加者の感想です

- * 認知症の方への接し方の糸口がつかめた。
- * アルツハイマーの世界観について具体的に勉強になった。仕事に生かします。
- * 記憶がだんだんさかのぼることが具体的によくわかった。会話の仕方など具体的で良かった。
- * 認知症についての考え方が少し深まったと思います。参考にしたいと思います。
- * 現在職場での入居者様のことを思い出し、今後のケアにとっても参考になりました。息子が介護センターの職員をしているため、とても良い話だったと思いました。
- * ロールプレイ意外と楽しかった。認知症の方と接する時は、今日のことを思い出しながら接したいと思いました。

等々

・ロールプレイの後、参加者の感想を聞き、学びを共有することができました。質問コーナーでは関わり方などの質問があり、喜多先生が答えて下さいました。

